

# KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

特集

*Special*

世界市民を育む、学びがある。

## 世界へ羽ばたく世界市民へ! 関西学院大学での私の学び

2018.4.1  
259号

数字でみる関学

関西学院の使命とスクールモットー

突撃! KG CLUB

体育会 カヌー部



## 学長のポケット

学長・村田 治

### 世界市民への 新たなチャレンジを

関西学院大学のミッションステートメントは、「Mastery for Serviceを体現する世界市民の育成」にあります。“Mastery for Service”は本学のスクールモットーであり、「奉仕のための練達」と訳されます。これを提唱された初代学長のベーツ先生は、この言葉について次のように述べられています。

「我らは弱きを欲しない。強からんこと、主たらんことを願う。しかし我らが主たらんと願う目的は、己れ個人の富を積むことではなく、世に仕えることでなくてはならない。」

つまり、社会や世界の変化に対応するために、自己を鍛え、その成果を自分のためだけでなく世界人類のために役立てなさいと言われて

ています。世界市民(world citizen)であるために、4年間の大学生活を通して、語学や専門分野の勉強を徹底的に学ぶことは勿論のこと、新たなスポーツやボランティア活動、そして海外留学にぜひチャレンジしてください。

関西学院大学では、入学した学部での学びの他に、インターナショナル・プログラム、ハンズオンラーニング・プログラム、副専攻プログラムのいずれかにチャレンジすることを学生の皆さんに求めています。4年間の学生生活が充実したものになることを心から願っております。

1	学長のポケット 表紙人
2	特集 世界市民を育む、学びがある。 世界へ羽ばたく世界市民へ! 関西学院大学での私の学び
9	ひとひと
11	Research & Research 商学部 石淵 順也ゼミ 理工学部生命医化学科 関 由行研究室
13	突撃!KG CLUB 体育会 カヌー一部
15	My favorite KG アウリア ムハマド ザキさん (インドネシア) GO Global! 大西 勇磨さん(商学部3年生)
16	数字でみる関学 関西学院の使命とスクールモットー
17	Moment
19	TALK DEEP ~「教わる」から「研究」へ~
25	就職の窓 「キャリアの第一歩」
27	Campus News 関学カプセル KGグルメ 学院通信
32	世界の街角から トルコ 佐々木 大輔さん
33	Libraring 大学図書館を使いこなそう!
34	聖書に聞く 院長 田淵 結

### 表紙人

森 愛美さん

総合政策学部3年生



総合政策学部メディア情報学科の学生を中心とした有志団体「Kwansei gakuin Sps Maker」の代表を務める。阪神・淡路大震災当時の写真や動画をデジタル化し、アーカイブす

ることで、震災の記憶を後世に伝える活動をしている。

きっかけは2017年の阪神・淡路大震災追悼行事「1・17のつどい」(三宮・東遊園地)に参加したこと。会場に設置されたテントの中にある遺族や被災者の方々から、風化を恐れる声をたくさん耳にした。一方で、多数のメディアは追悼式の模様によく時間を費やし、撮影・取材していることに違和感を覚えた。

「震災を体験していない若い世代の自分たちができることは何かを考えた結果、テントの中にいる被災者たちに話を聞いて、その様子を撮影し、記憶を継承することではないかと考えました」

と当時を振り返る。

森さんたちはテントの中で被災者の声を収めた動画や当時の写真を集めるだけでなく、各自の視点でまとめたスライドを作成。意見交換をしながら、震災について学び続けている。来年の「1・17のつどい」の前には、動画や写真の展示会を開く予定だ。

「メディアの限界や疑問を感じたことから始めた活動ですが、メディアが他者に与える影響力についても実感しました。私たちのような若い世代が、人の目に触れなくなりつつある震災の現実を伝えることに意味があると考えます。今後も活動を通じ、次世代に伝えていきたい」





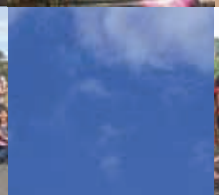
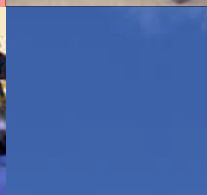
**特集**  
*Special*  
世界市民を育む、学びがある。



世界市民を育む、  
学びがある。



世界市民を生む、  
集いがある。



# 世界へ羽ばたく世界市民へ!

## 関西学院大学での私の学び

関西学院大学は、スクールモットーである“Mastery for Service (奉仕のための練達)”を体現する「世界市民」の育成を使命としています。世界市民とは、広い視野を持ち、他者への思いやりと社会変革への気概、そして自らの大きな志を持って行動できる人のことです。学生たちは、ここでさまざまな経験を経て、多くを学び、それぞれが目指す世界市民像に向けて一歩ずつ成長しています。そんな学生たちの取り組みについて「学び」「集い」「精神」「絆」をテーマに紹介します。



世界市民を支える、  
精神がある。



世界市民をつなぐ、  
絆がある。





# 世界市民を育む、**学び**がある。

## 社会探究実践演習(朝来・竹田城下町活性化プロジェクト)



1 フィールドワークでの早朝インタビュー 2 第1回フィールドワークでメンバーたちと 3 竹田城下町寺町通りの法樹寺 4 竹田城下町の寺町通り 5 最後のフィールドワークで(商工会館) 6 国際社会貢献活動で訪れたマレーシアで、イバン族の伝統行事

## 観光を通じた地域活性化に取り組み 問題の背景を考える大切さを学ぶ

この授業は、朝来市竹田地区をフィールドに、地域産業の振興と観光を基本にしたまちづくりの在り方について現地の商工会、観光協会やNPO法人等と連携して調査し、活性化策を提案するというものです。最初は、先生や商工会の方に来

た。この授業は、朝来市竹田地区をフィールドに、地域産業の振興と観光を基本にしたまちづくりの在り方について現地の商工会、観光協会やNPO法人等と連携して調査し、活性化策を提案するというものです。最初は、先生や商工会の方に来

た。この授業は、朝来市竹田地区をフィールドに、地域産業の振興と観光を基本にしたまちづくりの在り方について現地の商工会、観光協会やNPO法人等と連携して調査し、活性化策を提案するというものです。最初は、先生や商工会の方に来

た。この授業は、朝来市竹田地区をフィールドに、地域産業の振興と観光を基本にしたまちづくりの在り方について現地の商工会、観光協会やNPO法人等と連携して調査し、活性化策を提案するというものです。最初は、先生や商工会の方に来

た。この授業は、朝来市竹田地区をフィールドに、地域産業の振興と観光を基本にしたまちづくりの在り方について現地の商工会、観光協会やNPO法人等と連携して調査し、活性化策を提案するというものです。最初は、先生や商工会の方に来

た。この授業は、朝来市竹田地区をフィールドに、地域産業の振興と観光を基本にしたまちづくりの在り方について現地の商工会、観光協会やNPO法人等と連携して調査し、活性化策を提案するというものです。最初は、先生や商工会の方に来

た。この授業は、朝来市竹田地区をフィールドに、地域産業の振興と観光を基本にしたまちづくりの在り方について現地の商工会、観光協会やNPO法人等と連携して調査し、活性化策を提案するというものです。最初は、先生や商工会の方に来

た。この授業は、朝来市竹田地区をフィールドに、地域産業の振興と観光を基本にしたまちづくりの在り方について現地の商工会、観光協会やNPO法人等と連携して調査し、活性化策を提案するというものです。最初は、先生や商工会の方に来

た。この授業は、朝来市竹田地区をフィールドに、地域産業の振興と観光を基本にしたまちづくりの在り方について現地の商工会、観光協会やNPO法人等と連携して調査し、活性化策を提案するというものです。最初は、先生や商工会の方に来



潮 華音さん

(国際学部4年生)

### 新入生へ

高校までは、待っていても情報が入ってくることが多かったと思いますが、大学では自分から情報を取りに行く必要があります。特に関西学院大学は、たくさんの学びの機会を提供してくれています。しかし、自らが動かない限りは何も始まりません。どんどん挑戦してください。失敗が許されるのが学生の特権だと思います。新入生の皆さんには、挑戦と失敗を繰り返して学んでほしいと思います。



1 バレーボール部の淡路島合宿 2 バレーボール部のメンバー 3 フレッシュマンキャンプの参加者たち 4 リーダーズキャンプの様子 5 リーダーズキャンプでの本部長あいさつ 6 体育会学生会本部長

体育会学生会本部長

世界市民を生む、集いがある。

## 地域やOB会へと輪を広げて「つながり」がある体育会を目指す

高校までバレーボールをしており、入学後もバレーボール部に入りました。しかし、周りには全国大会で優勝や準優勝を経験した選手がいて、レベルの高さを痛感。「選手としてはチームに貢献できないかもしれない」という思いを徐々に抱くようになり、途中で半端になることが嫌だったため、人と関わるのが好きだったため、選手以外でチームに貢献できる道として、2年生の時に体育会学生会本部に入りました。しかし、ずっと選手として打ち込んできたため気持ちの整理ができない部分もあり、本部の仕事よりもバレーボール部の練習を優先してしまうこともありました。

私が目指すのは「つながり」がある体育会です。一つの部の中で終わるのではなく、部を越えた交流を持つようになり、

が生まれやすい雰囲気をつくり出し、より良い体育会をつくっていきたいと考えています。毎年開いている関西大学との定期戦「関関戦」では、集客にまだまだ課題があります。学外に出ることを大切に、地域やOBとのつながりを強化する中で、たくさんの方の応援をいただけるようになりたいですし、それと並行してOB会も盛り上げていきたいと考えています。つながりを少しずつ生み出すことで、体育会の輪が広がっていくことを望んでいます。1年という任期で、この理想を実現することは難しいと思いますが、今後、体育会をより良く、支えていくための基盤をつくっていきたいと思っています。

### 体

体育会学生会本部の本部長を務めています。在籍する約2500人をまとめる立場にあるので、自分の行動が体育会に影響を与えるという自覚を持って取り組もうと考えています。



平田 一裕さん

(人間福祉学部4年生)

### 新入生へ

新しいことに挑戦するのは素晴らしいことだと思います。私は高校までバレーボールばかりをしていましたが、新しい挑戦をしたことで、自分自身の成長を感じますし、充実した大学生活を送れています。挑戦は成長の糧になります。体育会にはラクロスやカヌーなど、大学から始められるスポーツもたくさんあるので、こうした競技に挑戦するのもいいと思います。



# 世界市民を支える、**精神**がある。

CLUB GEORDIE 事務局長



1 Coffee Hourで留学生と交流 2 国際系イベント RaRaRamen 3 国際系イベントLet's enjoy MUKASHI ASOBI 4 小学校での開発教育 5 内部研修の様子 6 和歌山大学WAPさんとの交流会

## 活動の達成感や人とつながる楽しさ 学びを後輩たちに伝えていきたい

3年生までが中心です。上級生が引退した現在は約60人で活動していますが、毎年、新入生が加わると

参加することを決めました。  
メンバーは主に総合政策学部の3年生までが中心です。上級生が引退した現在は約60人で活動していますが、毎年、新入生が加わると

「The First Step to the World(世界への一歩を踏み出す)」を理念に、国際系イベントの提供と開発教育の実施の二つを軸に活動する学生団体「CLUB GEORDIE」の事務局長をしています。「国際交流や国際協力には興味があるけど、一歩を踏み出す勇気が出ない」。そんな人たちの支えとなり、世界へ踏み出すきっかけを与えられるような活動を提供したいと考えています。

昨年6月に開いた小学生対象の開発教育は、私も中心メンバーとなつて進めました。「小学生への「The First Step to the World」を目的に、日本と海外の「一日の生活」について通学方法

100人近くになります。最近では理工学部の学生も数名加わり、さらに活発に活動しています。組織内には広報部、企画部、開発教育部、総務部の四つの部署があり、全員がどこかの部署に配属されるため、それぞれに役割が与えられます。私は、事務局長になるまでは広報部に所属しており、機関紙の作成を主に担当してきました。その他にも、留学経験者を招いて経験を1、2年生などに紹介してもら

や給食などの違いを写真で紹介する紙芝居形式の授業をしました。小学生に授業をすることはとても難しく、適切な話し方や言葉遣いで伝えることに苦労しました。最近、子どもたちも海外についてよく知っているため、他の団体と情報交換をするなどして授業内容を改善していく必要があると感じました。より良い授業をつくり、多くの子どもたちに世界に興味を持つきっかけを与えられればと考えています。

この活動を通して、先輩たちから多くのことを学んできました。事務局長となった今は、その学んだことを後輩たちに伝えていかなければならないと思っています。さまざまな活動があり、それぞれに責任も生じるため、大変に思うこともありますが、その中で経験する達成感や人とのつながりには、それ以上の楽しさがあります。この楽しさを後輩たちに伝えていくのが自分の役割だと思っています。今後も活動に取り組みしていきたいと思っています。

や給食などの違いを写真で紹介する紙芝居形式の授業をしました。小学生に授業をすることはとても難しく、適切な話し方や言葉遣いで伝えることに苦労しました。最近、子どもたちも海外についてよく知っているため、他の団体と情報交換をするなどして授業内容を改善していく必要があると感じました。より良い授業をつくり、多くの子どもたちに世界に興味を持つきっかけを与えられればと考えています。

この活動を通して、先輩たちから多くのことを学んできました。事務局長となった今は、その学んだことを後輩たちに伝えていかなければならないと思っています。さまざまな活動があり、それぞれに責任も生じるため、大変に思うこともありますが、その中で経験する達成感や人とのつながりには、それ以上の楽しさがあります。この楽しさを後輩たちに伝えていくのが自分の役割だと思っています。今後も活動に取り組みしていきたいと思っています。



### 新入生へ

大学生活は、これまでの人生と比べて時間がたつのが信じられないくらい早いです。一方で、自由な時間も多く、この自由な時間をどう使うかが大学生活ではとても大切だと思います。大学は高校と比べると、多様な人が集まっており、CLUB GEORDIEには、さまざまな分野の研究を本気でしながら、サークル活動にも本気で取り組むメンバーがたくさんいます。「自分を変えたい」「挑戦したい」と思う人、ぜひお越しください。

みなと  
橋本 港さん

(総合政策学部3年生)



1 オフィスの前でスタッフと 2 カンボジアのフルーツ売り場。安くておいしい 3 スタッフの誕生日会 4 セタフェスティバルのスポンサー企業の方と 5 CWCメンバーが集まる国際事業室 6 日本語への翻訳業務の様子

CWC幹事 カンボジア日本センター派遣

世界市民をつなぐ、絆がある。

## 海外での貴重な体験の後も 同じ志を持つ仲間と共に活動中

さまざまな業務のうち最も苦労したのは、両国の交流を目的に開催するフェスティバルの協賛企業を探す業務でした。最初に担当したのは7月の「セタフェスティバル」で、私と同じ年くらいのカンボジア人男性とペアになって仕事を進めました。しかし、英語が苦手だったため企業との交渉がうまくできず、ペアの男性に頼りきりになることが多くありました。彼との意思疎通にも苦労して、意見の食い違いから泣いたこともありました。結局、私が獲得できた協賛企業は1社のみで、「何もできなかった」という悔しい気持ちが残りました。

その後、9月に開催する「お月見フェスティバル」に向けて、同じ業務を担当させてもらいました。前回の失敗から「まずは自分でできることをしよう」と考え、日本人が窓口を担当している企業に積極的に依頼に行きました。多くの失敗を経験した前回のことがあったので、少しの自信と落ち着きを持って業務に臨めました。その結果、私自身4社から協賛を獲得することができ、全体の協賛企業数は前年の2倍の10社となりました。上司からは高い評価をもらい、大きな達成感を感じました。8月に帰国したため、本番を見届けることができませんでした。パートナーが当日の様子を写真や動画で送ってくれ、心に残る経験になりました。

この活動に参加するまでは、海外で活動することは遠い世界のことのように、少し怖く感じている部分もありました。しかし、勇気を出して参加したことで、貴重な体験をし、同じ志を持つ仲間とも出会い、大きく成長できました。今後は、自分を成長させてくれた活動をより広く知ってもらい、多くの学生に挑戦してもらえよう、広報活動に力を入れていきたいと思っています。

その後、9月に開催する「お月見フェスティバル」に向けて、同じ業務を担当させてもらいました。前回の失敗から「まずは自分でできることをしよう」と考え、日本人が窓口を担当している企業に積極的に依頼に行きました。多くの失敗を経験した前回のことがあったので、少しの自信と落ち着きを持って業務に臨めました。その結果、私自身4社から協賛を獲得することができ、全体の協賛企業数は前年の2倍の10社となりました。上司からは高い評価をもらい、大きな達成感を感じました。8月に帰国したため、本番を見届けることができませんでした。パートナーが当日の様子を写真や動画で送ってくれ、心に残る経験になりました。

その後、9月に開催する「お月見フェスティバル」に向けて、同じ業務を担当させてもらいました。前回の失敗から「まずは自分でできることをしよう」と考え、日本人が窓口を担当している企業に積極的に依頼に行きました。多くの失敗を経験した前回のことがあったので、少しの自信と落ち着きを持って業務に臨めました。その結果、私自身4社から協賛を獲得することができ、全体の協賛企業数は前年の2倍の10社となりました。上司からは高い評価をもらい、大きな達成感を感じました。8月に帰国したため、本番を見届けることができませんでした。パートナーが当日の様子を写真や動画で送ってくれ、心に残る経験になりました。

この活動に参加するまでは、海外で活動することは遠い世界のことのように、少し怖く感じている部分もありました。しかし、勇気を出して参加したことで、貴重な体験をし、同じ志を持つ仲間とも出会い、大きく成長できました。今後は、自分を成長させてくれた活動をより広く知ってもらい、多くの学生に挑戦してもらえよう、広報活動に力を入れていきたいと思っています。



### 新入生へ

関西学院大学には、教室以内での勉強だけでなく、さまざまなことに挑戦できるチャンスが広がっています。私は、国際社会貢献活動に参加したことで、自分の視野が広がり、大きく成長できたと思います。新入生の皆さんには、一つのことだけでなく、複数のことに挑戦してほしいと思います。新しいことや複数のことに挑戦することは少し勇気がいるかもしれませんが、思い切ってチャレンジしてください。

奥村 南実さん

(経済学部4年生)



関西学院は2014年9月28日、創立125周年を迎えました。関学公式YouTubeで公開中の動画「Be a World Citizen」では、125年の歴史を紹介しています。ご覧いただき、関学の歴史を感じてください!



関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育てることを使命とします。

## 関西学院 ミッションステートメント

関西学院は2008年、「ミッションステートメント」を策定し、学院の本来の在り方や目的の本質を示す指針としています。

## 理念と精神

京丸の内、宝塚、千里国際)に約2万8,000人が集い、学んでいます。建学の精神はスクールモットーへ、さらにミッションステートメントへと受け継がれています。

## 創立者 W.R.ランバス 「世界市民」

創立者であるアメリカ人宣教師(南メソヂスト監督教会)ウォルター・ラッセル・ランバスは、1854年に両親の赴任先であった上海で生まれました。祖国アメリカで医学と神学を修め、中国に戻って医療活動に携わりながら宣教師として活躍し、1886年に32歳で日本に赴きます。

1889年、牧師養成と青年への全人教育を目的とした男子校の創立を計画し、原田の森(現在の神戸市灘区)に木造校舎を建造して関西学院(くわんせいがくいん)と名付けました。

ランバスはわずか4年の日本滞在期間に数々の教会や学校の創立に関わりました。離日後も、その圧倒的な行動力によって南米、アフリカ、ヨーロッパ、シベリア、中国、朝鮮半島など世界中で伝道活動を続け、特にアフリカへの伝道を人生の目標(ライフミッション)として情熱を傾けました。

ランバス家の故郷ミシシッピ州には、一家の働きを記念する碑が立っています。そこには、“World Citizen and Christian Apostle to many lands (世界市民であり、世界各地へのキリストの使徒)”という句が刻まれています。



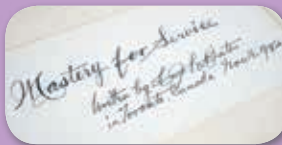
## 第4代院長・初代学長C.J.L.ベーツ “Mastery for Service”



第4代院長・初代学長であるカナダ人宣教師(カナダ・メソヂスト教会)コーネリアス・ジョン・ライト・ホール・ベーツは、1877年にカナダ・オンタリオ州で生まれました。マギル大学で学んだ後、1901年にクイーンズ大学を卒業(のちトロント大学、イェール大学等で学び、1918年、モントリオールのウエスレアン神学校から神学博士号を受ける)し、1902年に東洋伝道への献身を決意して来日しました。

カナダ・メソヂスト教会が関西学院の共同経営に参与した1910年、関西学院に赴任。2年後に新設の高等学部長に就任しました。その際に学生たちに提唱した“Mastery for Service”が多くの共感を得て、学院全体のスクールモットーになりました。

“Mastery for Service”は「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛えるという関学人の在り方を示しています。



←第4代院長・初代学長  
ベーツの直筆による



## ヴォーリス建築

1905年来日し、キリスト教の伝道活動とならんで1,500件以上の建築物を残したウィリアム・メレル・ヴォーリス。ヴォーリスは第4代院長・初代学長ベーツと共に、創立者ランバスの理想を実現することに注力し、西宮上ヶ原キャンパス設計に当たって、関西学院の個性と独自性を赤い瓦屋根とクリーム色の外壁が特色のスパニッシュ・ミッション・スタイルで表現しました。キリスト教主義の学校の在り方を象徴的に具現化したヴォーリス建築は、新しい校舎群にも継承されています。

また、関西学院西宮上ヶ原キャンパスは、1929年の創建以来の設計思想を継承しながら、現在の大学に求められる施設の機能向上を的確に行ったことが評価され、2017年日本建築学会賞(業績)を受賞しました。



## 関西学院の歴史



## ボランティア活動

### ボランティアセンター ヒューマン・サービス 支援室

関西学院大学におけるボランティアセンター「ヒューマン・サービス支援室」では、ボランティアをしたい学生に情報や活動を紹介し、すでにボランティアをしている学生や学生団体には、さらなる発展のサポートをしています。

ヒューマン・サービス支援室は、西宮上ヶ原キャンパスの正門を入ってすぐ左手、門衛室の隣にあります。興味がある方は、気軽に訪れてください。



創立以来、社会奉仕「ボランティア活動」の伝統が根付き、大きく育っています。現在は国内外問わず、多彩なボランティア活動が行われ、一人ひとりが“Mastery for Service”を自分たちのできる形で実践し続けています。



↑宗教総部  
献血実行委員会の活動



↑熊本地震の  
ボランティア

## 関西学院の

関西学院は1889年、教師5人と生徒19人の小さな学校としてスタートしました。現在、七つのキャンパス(西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田、大阪梅田、東

## 校歌「空の翼」

1933年に、前年の大学昇格を記念する意味もあって、北原白秋が作詞し、同窓の山田耕筰が作曲しました。

新月が満月へ刻々と変化するように、関西学院で学ぶ者全てが日々進歩と成長の過程にあることを意味しています。また月が太陽の光を受けて暗い夜を照らすように、私たちが神の恵みを受けて世の中を明るくしていきたいとの思いを表しています。

## 校章



↑クリスマスツリー点灯式



↑ランバス記念礼拝堂

## キリスト教主義教育

1年生の必修科目である「キリスト教」、毎日開かれている「チャペルアワー」、12月のクリスマスツリー点灯などを通して、キリスト教を学ぶ機会が充実しています。世界的な広い視野と価値観を持って活躍できる人間形成への営みが、キャンパスの至る所で展開されています。



## 花村 拓人さん

法学部3年生

# トップ選手との米国合宿が弾みに 陸上800メートルで室内日本歴代2位を記録

## 2

月25日に米国・ボストンで開かれた陸上競技の室内大会「2018 Boston University Last Chance Meet」の男子800メートルに出場し、室内日本歴代2位となる1分47秒86を記録した。昨年の日本選手権で4位、国体では2位に入賞するなど、着実に力を付けている。

ニューヨークを拠点にした強化合宿に2月から約1カ月間参加し、現地のプロチームに所属する選手たちと共に練習や試合に臨んだ。「海外でこれだけ長期間生活するのは初めて」と言い、「トップレベルの選手は、練習の強度だけでなく、栄養管理など私生活から全てが

違っていた。自分はまだまだ甘いと感じた」と大きな刺激を受けた。トレーナーを中心に練習メニューを考え、弱点である左半身の強化に精力的に取り組んだ。現在も、作成してもらったメニューを中心に日々練習を積んでいる。しんどい時も「練習のための練習にならないように」と自分でチェックポイントを意識してきたことが、結果に表れてきた。

間もなく始まる大学3年目のシーズンについて、「今まで全国で1番になったことがないので、まずは大学生の中で1番になる。その後、東京オリンピックに出ることが最大の目標です」と闘志を燃やしている。



# 学内外で週8回の練習を積み ボクシング部初の女性王者に

## 昨

年12月に米子産業体育館（鳥取県米子市）で開かれた「第16回全日本女子ボクシング選手権大会」のシテライトウエルター級に兵庫県代表として出場。見事優勝を果たし、ボクシング部史上初となる女性チャンピオンとなった。

高校ではバレーボール部に所属し、全国大会のメンバーにも選ばれたが、思うような活躍ができなかったため、大学に入ったら「違う競技に挑戦したい」と考えていた。入学後、たまたま通りかかったボクシング部の練習場から好きなバンドの曲が流れているの聞き、興味をそそられた。後日、「なんとなく」練習を見学に行くと、後に引けなくなり、入部を決めた。

初めは基礎練習が多く、目標もなかったが、昨年秋季の大会に出ることが決まって奮起。「練習は週8回」と話すように、大学での週6日の練習に加え、そのうち2日は練習後に、自宅から3時間離れた大阪のジムに通って技を磨いている。

原動力となっているのは、負けん気の強さと周りの人への感謝の気持ちだ。「突然入ってきた女子の私に、先輩方は嫌な顔一つせずに丁寧に教えてくれた。みんなのおかげでやってこられた」と感謝する。「まだまだボクシングについて分からないことが多いし、試合も怖い。でも、やるからには負けたくない。目標は2連覇です」と意気込みを語る。

## 田口 綾華さん

経済学部3年生



中井 理恵さん

言語コミュニケーション文化研究科 2018年3月修了

子連れで英国の大学に留学  
日英両大学の修士号を取得

言

語コミュニケーション文化研究科で学びながら、英国のスターリング大学に留学することで、両大学の修士号を取得できる「スターリング大学ダブルディグリー」コースの1期生。2年間で両大学の修士号を取得した。

学生時代から海外で生活することが多く、米国の大学を卒業した後は、日本、カナダ、中国で通訳や英語講師などとして活躍。その後、学校や企業などさまざまな場で英語を教えるようになり、「英語の教授法について、より専門的な知識と技術を身に付けたい」と考えるようになった。そんな時、このコースを知って挑戦を決めた。小学生の子どもがいる中井さんは「子どもを連れて留学できること

も魅力的だった」と話す。

言語コミュニケーション文化

研究科に入学後は、勉強で

春学期に2年分の単位を取得。昨年からの留学

では、自分と同じように子どもを持つ「フラスメート

と協力しながら授業と子育てを両立させた。

「英語が母国語ではない人が、どのように英語を教えたいのか深く学ぶことができた。多様な人種が集まるので勉強以外にも学ぶ部分が多く、自然に囲まれたキャンパスはむとぎの国のようであり、楽しかった」と振り返る。「今後は、この学びを生徒たちに還元し、楽しく学ぶ英語を伝えていきたい」と笑顔で話す。



スターリング大学



ウガンダの学校で貧困を痛感  
子どもたちが夢を実現できる環境を

昨

年夏に約1カ月間、ウガンダ共和国でエイズ遺児の支援などに取り組んだ。「将来は、アフリカの貧しい子どもたちが夢を実現できる環境づくりに貢献したい」と夢を語る。

あしなが育英会の現地NGO「あしながウガンダ」のインターンシップに参加するために、現地を訪問。エイズ遺児や貧しい家庭の子どもが通う学校に勤務し、勉強を教えたり、イベントを企画・運営した。

3泊4日のキャンプでは、子どもたちが抱いている思いや感情を本音で出してもらおうというグループディスカッションを実施。子どもたちは、貧しいながらもさまざまな夢を話してくれた。一方、

「お金がないから夢はかなわない」と、泣き出し、将来を悲観的に考えている子がいることも知った。「必死に努力している子からは、日本の若者にないたくましさを感じたし、実際に夢をかなえた人にも出会った。しかし、『どれだけ頑張っても無理と絶望感を抱く子どもが多いのが現実で、日本との違いを痛感した』  
もともと、発展途上国の子どもへの教育支援に興味があった。大学卒業後にはアフリカの大学院で社会開発学を学ぶため勉強に打ち込んでいる。「アフリカの貧困は決して遠い話ではない。アフリカの子どもたちを支援できる分野で活躍したい」と意気込んでいる。

稲野 健夫さん

人間福祉学部4年生





石淵 順也 教授

を人生の最重要事項と捉えず、一つの購買に割ける時間や労力も限られています。関心が低く資源も少ない中、現況がだまかに自分にとってポジティブかネガティブかという感情の情報は、意思決定を方向づける有用な情報です。

### 問

題を認識し、解決のための選択肢を探し、実行する。成否の評価を行い、次回に生かす」。この説明はビジネスの一般論の話だと思われがちですが、これは多くのマーケティングの教科書に書かれている消費者の購買意思決定プロセスの説明です。私たちはこの流れを目標に購買することはありますが、実際にこのような硬いプロセスだけで、モノやサービスを購入していると考ええる人は少ないでしょう。

私の専門は、マーケティング論の中でも消費者行動における感情の働きの研究です。消費者は多様で不確実な環境に柔軟に適応するため、購買や消費の場面で感情を上手に使っています。私たちの多くは購買や消費

良い状況だと感じればポジティブになり、周囲に目を向け拡散的思考を高めまます。実際、店舗内で楽しさを感じる時、消費者は想起購買などの創造的購買を行うことが分かっています。感情に注目することで、より人間らしい消費者行動の理論の構築を目指しています。学生には目に見えない世界を考える力を持つてほしいと思っています。マーケティングの知識も重要ですが、消費者の心の中や経済動向など目に見えない世界が、どのような仕組みで動いているのかを考える力はより重要です。社会科学の学びで培われるこの力は、社会と自分の未来を開拓するために役立つと考えています。

## “座学”と“実践”でマーケティングの過程を学ぶ



小川 将史さん  
2018年商学部卒

研究テーマは「マーケティングリサーチによる新製品開発と戦略策定」。ゴールは、商品開発ではなく、企業の事例研究などの座学と、産学連携プロジェクトによる、実践を通して、一連のマーケティングのプロセスを学ぶことです。

3年次には商品開発コンテストに出場し、アイデアを形にする難しさを学び、4年次には企業と連携し、実際に売り出す商品を考えます。調査・分析によりターゲットを選定、そこに刺さるコンセプトを考案するなど、3年次に培った学びが生かれます。グループワークの時間が多いですが、オンオフを切り替えて楽しく研究に取り組んでいます。

ゼミの特徴は縦のつながりの強さ。合同ゼミなどを通して先輩から後輩に知識が受け継がれます。後輩には、今後心優しい先生と共に、精度の高い研究を続けてほしいと思います。



# 生物の進化に 関与する生殖細胞 の進化へ命をつなぐ 仕組みの解明を



関 由行 准教授

研究が将来的に不妊治療などにつながるかもしれない。「進化」の研究にも興味があります。どの生物も生殖細胞を通して進化を遂げてきているので、さまざまな生物を調べることで、どのように生物が進化し、ヒトが生まれてきたのかを知りたいと思っています。

**私** たちの体は、約37兆個、成功しました。270種類の細胞で作られているのですが、それらは、個体の死とともに消滅する体細胞と、次の世代に命をつなぐことができます。生殖細胞の二つに大きく分けることができます。私はこの生殖細胞が、どのような仕組みで生命の連続性を保証しているのかについて解明したく、研究に取り組んでいます。

これまでの研究成果でいえば、マウス生殖細胞の成長段階の巻き戻しに人工的に成功しました。卵や精子になる生殖細胞は、受精するとさまざまな細胞に変化できる万能性を獲得しますが、その万能性は細胞が成長する中で失われます。しかし、生殖細胞を作る時に重要となる遺伝子を働かせることで、細胞の成長段階を巻き戻し、再び万能性を持った細胞に戻すことに

また最近では、生物の性別がどのように決まるかについても研究をしています。この研究では、ヤモリを使うことが多く、実際に研究室で飼育して、彼らが産んだ卵を使って実験をしています。従来の研究ではマウスを使うことが多かったのですが、マウスは特有の進化を遂げるため、その構造がヒトとは大きく異なることが分かってきました。そのため、実験としては使いやすいものの、参考にならない部分も多かったのです。そこで、初期胚の形状がヒトに比較的近いヤモリに注目するようにになりました。マウスとヤモリを実験に使っている研究室は世界的にも珍しいです。

現在、日本では6組に1組が不妊、32人に1人は生殖医療で生まれてきているといわれており、高齢出産も増えてきています。自分の研究が将来的に不妊治療などにつながるかもしれない。「進化」の研究にも興味があります。どの生物も生殖細胞を通して進化を遂げてきているので、さまざまな生物を調べることで、どのように生物が進化し、ヒトが生まれてきたのかを知りたいと思っています。

## 始原生殖細胞の形成の仕組みを明らかに



杉山 昂太さん  
理工学研究科M1年生

精子や卵子のもととなるヒトの始原生殖細胞の形成の仕組みを解明することを目的に研究をしています。具体的にはELK1とMED23という因子が、始原生殖細胞の形成にどのように関与しているのかを明らかにしたいと考えています。

始原生殖細胞の形成の仕組みを解明することは不妊治療の発展につながります。さらに、初期の胚発生の仕組みを明らかにすることで、生殖細胞への誘導方法のみならず、その他の体組織への分化誘導方法についての解明につながり、iPS細胞などを用いた再生医療の発展にも応用できると期待されます。研究をする中で、新しい発見や思い通りの結果を得られたい時は、大きな喜びを感じます。

研究には失敗がつきもので、研究を通して、失敗しても諦めずに挑戦し続ける精神力と、物事をあらゆる角度から考える思考力が身に付いたと思います。大学院では、より研究に励み、得られた成果を社会に還元していきたいと考えています。

このコーナーでは、KGB 総部放送局が記事と映像で、部活動に励む関学生のイキイキとした姿をお届けします!

## （ 体育会 カヌー一部 ）

カヌー一部は1958年に創設され、部員は男子19人、女子はマネージャーを含めて24人の計43人で練習に励んでいます。カヌーに乗り、湖や運河などでスピードを競うカヌースプリントと呼ばれる競技をしています。男女ともに関西制覇・全国制覇を目標として、関西学生選手権大会やインカレに向けて熱い日々を送っています。また他大学との合宿やレクリエーションなどもあります。そして多くの選手が大会で好成績を収めています。

突撃!  
KG CLUB  
*by KGB*

練習日  
月曜以外  
活動場所  
兵庫県立海洋体育館







## KGB総部放送局

関西学院大学で唯一の放送団体。アナウンス、ドラマ、技術、制作、報道の5パートに分かれ、昼休みの放送、番組制作、イベント音響などさまざまな活動を行っています！興味のある人はTwitter、ホームページなどをご覧ください！

HP→<http://www.everyday-kgb.com>  
Facebook→<https://m.facebook.com/KGBbroadcast>  
Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>

## インタビュー

▶主将  
藤井 凌さん  
(商学部4年生)



### Q.カヌー部の魅力は？

ONとOFFがはっきりしているところです。練習前に1年生が芸出しで盛り上げるのですが、練習が始まると、全員がキリッと切り替えます。

### Q.カヌー部に入ってよかったことは？

チーム全員で勝とうとする気持ちが強いところです。私は個人で勝てばいいと思っていたのですが、ここに入ってから全員で勝つんだという意識が強くなり、みんなで日本一を目指すことが楽しくなりました。

### Q.新入生に向けて一言！

カヌー部はどの部活よりも一番熱くて、良い仲間が集まっています。本気で日本一を目指したい人や貢献したい人は、ぜひ来てください！



## 取材レポート

水の上で戦う選手たち。競技の魅力に迫りました。

動画をCHECK!

↓映像はこちらから



## カヌースプリントとは？

カヌースプリントには二つの種目があります。

### カヤック

体育座りで船のコックピットに座り、両端にブレードが付いたパドルで漕ぐ

### カナディアン

片膝を付いた状態でコックピットに座り、片端にブレードが付いたパドルで漕ぐ



アウリア ムハマド ザキ  
**AULIA MUHAMMAD ZAKI**さん  
 (バジャラン大学 交換留学)  
 インドネシア出身

My favorite KG



## 日本人の友達と日本語での電話が日課

### — 関西学院大学を選んだ理由は。

留学は大学生生活の1年間を占めるので、じっくり考えた方がいいと思い、いろいろと調べていると関西学院にたどり着きました。そして、スクールモットーである“Mastery for Service”に出会い、大学における「service」の意味はなんだろうと考えていくうちに関学に引かれていきました。関学生と話していると、学生たちがどのフィールドでも活躍できるように、大学が幅広い学びを与えていることが分かります。それぞれの分野で「mastery」を目指すことで、どの分野でも活躍できるようになると感じています。

### — ホームステイはどうか。

最初は大変でした。僕は日本語が話せなくて、ホストファミリーは英語を話せませんでした。日本語を伸ばすビッグチャンスだと思うようにしましたが、最初の1週間は本当に気まずかったです(笑)。でも、もう大丈夫ですよ。とにかく勉強するしかなかったんで、今は普通にホストマザーとも話すことができ、言葉の壁も以前よりずいぶん感じなくなりました。

### — 関学での日常について教えてください。

いつも勉強です。最初は、教室と図書館の行き来ばかりでした。今では日本語が日常の一部になっていて、毎日が楽しいです。新しい挑戦が絶えずあります。例えば、少し日本語が使えるようになってきたなと思うと、読めない漢字が出てきます。漢字をクリアしたかと思うと、次は関西弁です。友達が関西弁を使って話しているのでも、関西弁が使えるようになりたいと思っています。敬語も勉強しないとですね。もっと日本語に慣れるように、日本人の友人と電話をすることが日課になっています。

### — 留学希望者へのアドバイスを。

まず、「あなたの留学のゴールは？」と尋ねます。日本語を学びたい、国際的な関係を築きたいなど、留学の目的はさまざまです。その目的に合わせてプログラムを選んだ方がいいですね。あとは、ホームステイもおすすめです。日本語で話す機会が増えますし、日本人の生活についても学ぶことができます。

### — 今後の目標は。

帰国したらまず、国際法に関する論文を書きたいと思っています。将来的には、輸出入会社を立ち上げたいので、日本とインドネシア両方の法律を

↓旅行先の仙台で友人と



勉強しないとイケません。まだまだ先の話ですが、両国で良い関係を築くことができれば素晴らしいと思います。

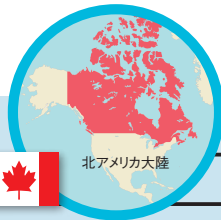
### — 一番好きな日本語は。

最初に思い浮かぶ言葉は「なんか」ですね(笑)。調べてみると、いろいろな意味が出てきましたが、実際にいつ、どうやって使うのかが分かりませんでした。とても曖昧な言葉ですので、大好きですね。



Go Global!

## 学ぶ環境を自らつくることで 一日一日が充実したものに



北アメリカ大陸

英語中期留学 大西 勇磨さん(商学部3年生) 派遣国 ▶ カナダ

昨年9月から約4カ月間、カナダのトロント大学へ留学しました。高等部のころから留学したい気持ちはあったのですが、なかなか一歩が踏み出せず、部活が忙しいことを言い訳に挑戦しないまま大学に入りました。

決心がついたのは1年生の時、同じサークルで仲の良い友人が留学したことがきっかけでした。現地で楽しそうに過ごす姿に刺激を受け、「自分も挑戦しよう」と決めました。出発前は、友人に会えなくなることや、ホームステイ先の家族のことなど、いろいろなことを心配しましたが、い



↑電車で出会った人たちと仲良くなり記念撮影

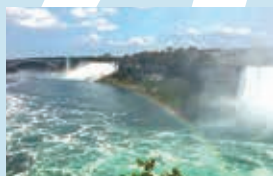
ざ現地に着くとそんな心配は一切無用だったと思うほど充実した日々を送ることができました。

現地で最初に感じたのは、教室では通じる英語が教室の外では通じないということです。英語の先生は、私たちが話す

少し訛った英語も難なく聞き取ってくれますが、慣れていない一般の人たちには通じませんでした。現地の日本人に頼ることもできませんでした。それでは大きな成長は望めないと、英語を話さざるを得ない環境を自らつくることを意識しました。生きた英語を学ぶために、学校が提供するアク

ティビティーに外国人の友人と参加したり、地域が開くイベントにボランティアとして参加したり。地元のマラソン大会には案内スタッフとして3回参加しました。ランナーは私を頼りに話し掛けてくるので、適切に素早く対応する必要があり、生きた英語に触れる訓練の場となりました。

↓留学中に訪れたナイアガラの滝



留学で大切なことは、一日一日をどれだけ充実したものにできるかだと思います。恥ずかしがって行動しなかったり、受け身になっていたりしてはもったいない。どれだけ自分から学びにいけるかが、留学の充実度を決めると思います。



# 数字でみる 関学

関西学院はスクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。今回は関西学院のスクールモットーと使命についての認知度、理解度を調べました。

## 関西学院の使命と スクールモットー

若いころの  
C.J.L. ベーツ



Q<sub>1</sub>

関西学院のスクールモットー  
“Mastery for Service”の意味を  
説明できますか。

関西学院のスクールモットーである“Mastery for Service”は、第4代院長・初代学長であるベーツの提唱によるものです。最初に紹介された1912年以降、校歌「空の翼」に歌われ、時計台のエンブレムに刻まれ、戦争や学生紛争の時代を越えて、関西学院の姿勢を端的に言い表すものとして今も繰り返し語られています。

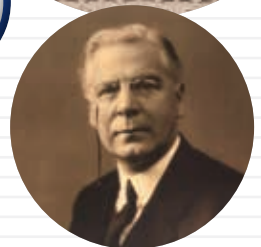
説明できる…**36.5%**

少し説明できる…**40.4%**

Q<sub>2</sub>

関西学院が「世界市民の育成」を  
使命にしていることを知っていますか。

関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”は、「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛えるという関学人の在り方を示しています。



知っている…**87.3%**

第4代院長・  
初代学長  
ベーツの直筆



“Mastery for Service”については、ほぼ4人に3人の学生が意味を「説明できる」「少し説明できる」と答えています。「説明できる」と答えたのは、1年生の**28.3%**から順に上がっていき、4年生では**44.1%**という結果になりました。当然のことながら、学年が上がるにつれて、理解度が深まっていると言えます。「世界市民の育成」が関西学院の使命であることは、約9割の学生が知っており、全ての学部で**80%**を超える結果となりました。特に国際学部は**98.1%**と非常に高い数字になっています。

これからも大きな視野を持ち、他者への思いやりと社会変革への気概、そして自らの大きな志を持って行動できる「世界市民」を目指しましょう。







次代を率いる、世界市民へ。



# やっぱり 研究は楽しい!

毎号テーマを変え、関西学院大学での学びや研究成果を座談会形式で紹介します。第1回のテーマは「『教わる』から『研究』へ」。実験やフィールドワーク、文献・資料研究といった多彩な手法で行われる研究の内容やポイント、また高校時代との違いなどを巡って話していただきました。

## 世界を舞台に シリア危機から 西宮の活性化まで

**打樋** まず、皆さんの研究の内容を教えてください。

**山下** シリア危機において全保障理事会を中心に国連は何を行い、各地に散らばることになった難民をどのように救済できているのかを、文献を中

心に調べています。私は、シリア危機が拡大した要因は、安理内における経済的利益を含めた政治的思惑に基づく常任理事国の拒否権の行使にあるのではないかと考えています。拒否権行使が本場に国連の動きの妨げになっているのかも考え、過去の各地の内戦における拒否権の発動要因やその結果を比較しています。そして、世界各地に散らばった難民たち起こっている問題についても調べることで、過去から現在の国連の対応を研究しています。

**打樋** なぜシリア危機を研究しようと思ったのですか。

**山下** 高校が単位制で、興味を持ったテーマを論文にすることが卒業の条件でした。私は、当時から国際情勢を大きく混乱に陥れたシリア危機をテーマに、なぜ起こり、何が拡大させたのかを調べて書き、完成した論文にも満足感を覚えました。ところが、法学部に入って授業で国際情勢を学ぶうちに、当時の視野が狭く、知識もない

穴だらけの論文だったことに気付きました。武藤祥准教授のゼミに入って一から文献などを調べ直し、もう一度きちんとした論文をまとめようと思いました。

**打樋** 倉橋さんは、どのようなきっかけで、どういう研究をされたのですか。

**倉橋** 3年生でゼミを選ぶ時、社会学部で何かしかりとした爪痕を残したいと思っていました。大岡栄美准教授のゼミが掲げていたテーマが地域活性化で、フィールドワークをしながら西宮市を活性化していくというところに興味を持ちました。私の地元は三田市も再開発途上で、西宮の研究と重なるため、自分が三田市で過ごしてきたことがゼミの研究に生かせるかなと思ったのです。



TALK DEEP

「教わる」から「研究」へ





新たな姿を考えるのが3年次の研究で、広い駐車場を南海トラフ地震の際の防災拠点などとして再利用するという計画を立てて結びました。でも改めて考えると、計画の実行には市場の方との協力やつながりが不可欠との結論に至り、そこから卒論の研究をスタートさせました。どうすれば事業者とのつながりを図れるのか、一人ひとりの話を聞こうと、4年生の4月からヒアリングを中心に活動しました。

### ミツバチを飼育し研究する 数理科学科!?

**宮木** 私は好きな数学の勉強がしたいと思い理工学部数理科学科を選びました。「いろんな数学があるな」「難しいな」と思いながら過ごすうちに研究室に配属される4年生になり、どこの研究室にするか教授たちの話を聞ける場で各研究室を紹介した冊子をもったんです。意味の分からない数学术語がいっぱい並んでいる中に、「ミツバチって出てきて、「この研究室、おかしいやろー」と話を聞きに行ってみると面白



くて。それが大崎浩一教授の研究室でした。自然現象と数学を結び付け、生物の増減や競争本能などを数式を使って説明します。例えば、ミツバチの巣はきれいな正六角形をしています。小さい生物で人間よりもはるかに脳細胞が少ないにもかかわらず、精巧な巣を作るのはなぜか、それを数理的観点から明らかにするようなことをしています。

修士論文は、ミツバチの行動に関する実験です。シャーレにミツバチを入れ、それぞれ赤、青、無色(白)のライトを当てて動画を撮り、コンピューターで解析して行動の違いを

調べました。結果、色によって行動がかなり変わることが分かりました。これはこれで発見ですし、発表のための事前勉強でも、人という光の三原色がミツバチでは紫外線、緑、青であることなどミツバチの視覚に関する生物学的な発見もあり、いろいろ知ることができて面白かったです。結局、実験装置や設定など全てを考えるのにM1年生の1年間を費やしましたが、それも含めてめちゃくちゃ楽しかったですね。

**打樋** 私の場合は中学部から関西学院で、大学は商学部に進みました。ただ、そこで学部うちに違う関心に出合ったというか、文化や芸術、思想的なことが好きだったのでその方面の書物や出会いの中でキリスト教の面白さに気付き、勉強したいと思って商学部卒業後に神学部に入籍した経緯があります。だから、自分の関心に向かって研究する面白さを最初に見いだしたのは、神学部に入ってからでした。研究内容は古代キリスト教史、キリスト教公認以前、2、3世

紀の迫害の時代です。日本語の文献がとてもないため、ギリシャ語やラテン語の原典や外国語の文献を読みながら何かを説明していくという、非常に地味な、図書館にこもるタイプの研究をしています。

日本語では中学、高校は「生徒」で、大学は「学生」と言いますね。そこには、生徒は教えられる対象、学生というのは学ぶ



うて び けい し  
広報担当学長補佐 社会学部 **打樋 啓史** 教授  
(研究分野/初期キリスト教史、スピリチュアリティ、現代文化とキリスト教)

主体というニュアンスの違いがあると私は思っています。皆さん大学での学びや研究において、どういうところに高校との違いや変化を感じますか。

### グループワークは 得意分野を分担し チームで高め合う

**山下** 高校の時との一番の

違いはテストにあると思います。高校は一問一答形式が多く、暗記中心でしたが、大学では「何」から「どうして」という理由までも問われるようになり、自分なりの考えとして説明することに戸惑った記憶があります。

**打樋** 一問一答ではない、簡単に答えが出ないような、具体的にどんなことがありましたか。

**山下** 私は昔から物事を善悪で捉えてしまいがちで、国連は平和のために活動する組織という善のイメージが強くありました。でも実際には、国連がシリア危機の拡大を止めようとしても、政治的思惑による拒否権の行使が事態をより悪化させ、国を追われた人たちが各国に散らばることで難民問題が起こり、それが難民と国民との文化的・宗教的対立、さらにはイギリスのEU離脱やドイツなどの極右政党の台頭などを招いています。全て連鎖的につながっていることが大学の学びで分かりました。国連は善悪だけでは判断できない存在になってしまっていることにも気付かされました。「戦後設立された平和のために活動

する組織は何ですか」「国際連合」という一問一答には収まらないというのが、一番ハツとさせられたことです。

**宮木** 私の場合は研究している時よりも、ミツバチを飼育している時に違いを感じました。しゃべらないので、何を言いたいのか、何をしているのか分からない。実は今年の冬、飼っていたミツバチが全て死んでしまいました。冬を越すのは3回目なので大丈夫だろうと思っていたら、一瞬のことで。何が原因か分からず、おそらくこうだろうなということを試すしかありません。何かが起きると、原因を考え、調べて探つてというのを繰り返します。すぐには答えが出ないところが高校と、また数学とも違いますね。原因も答えも全て分からない中、とにかく自分で考えてやってみるしかないというのは本当に難しいです。

**打樋** 自然や生き物に関わる研究ならではの困難や気付きがあるということですね。倉橋さんはどうですか。

**倉橋** テストに向けての勉強、知識の詰め込みが高校で、大学では、特にゼミの話ですが、

自分たちが明らかにしたい何かがあり、それに向けて能動的に文献を調べたり、実際に足を運んで聞いた話を持ち帰って分析したりというのが学びかなと思います。先生の在り方も関係しており、大学では先生が提出期限だけを決めてくださって、それに向けて自分たちで研究の質を高めていく。特に私たちのゼミでは卒業論文をグループで書くという形で、3年生からずっと4人で調査をし、もっといいものにしていうとチームで高め合えたのが研究に拍車を掛けたと思っています。

**打樋** グループでの研究発表は、うまくいけば、やる気につながるけれども、うまくいかなかったときが大変だと思うのですが。

**倉橋** 私のグループは比較的上まくいきました。そうでないグループは誰か一人に負担が掛かるなどパワーバランスが取れないことに原因があったようです。山下さんのように文献や資料を調べるのが得意な人もいれば、フィールドワーク向きの話し上手な人もいますので、役割分担しながら質の高い研究

成果を挙げられるのがグループワークの強みです。

**宮木** 私は研究室配属までは広く数学を勉強し、4年生で一つの分野に絞って集中するという形でした。だから、学部時代はそんなに深く研究する機会はなかったのですが、3年生からつすごいなと思います。からお二人の話聞いていました。



### 文献・史料で研究

授業内容を家に帰ってからまとめたノートと、後の研究に役立てるために書き込みしたレジュメ

法学部3年生 山下 菜央さん

3、4年生でがつつりと論文を作り上げていくのですか。

**倉橋** 3年生で卒論に似た調査報告書をまとめ、4年生ではそれをブラッシュアップするか、または新しいテーマで1年間卒業研究をするという形です。

**山下** 私のゼミは、4年生で何万字かのレポートを完成させるのが全体的なめどで、3



年生はその前の準備段階です。私のように最初から目的を持って入る人は少なく、先生がいろいろな題材を与えてくださるので、そこから面白そうだなと思うテーマを発掘するのが3年生、そのテーマで作っていくのが4年生という感じですよ。

### 点から線へ 知識が広がっていく 瞬間を実感する

**打樋** 社会学部のように卒業論文が課せられているところもあれば、制度としてはない法学部など、関学は学部の個性、独立性が強いですね。理工学部は4年生から研究室に属し、本格的な研究は大学院に入ってからでしょうか。

私が研究を始めるきっかけには、大学の授業だけでなく、読んだ本や触れた芸術作品から「これを学ぶのは面白いな」というひらめきがありました。大学生活とはそういう時期じゃないかと思えます。自分が知らなかった面白いことやもに出合える時と場が大学では与えられているのではないかと。そういう大学ならではの出

合いや体験があれば教えてく  
ださい。

**宮木** 一番は、大崎教授との出合いを含め、ミツバチと出会ったことですね。ミツバチを飼育している数理科学科というのには驚きました。

**倉橋** セミで地域の活性化や人と人とのつながりにどんなのめり込むうちに、地域への愛着とか、地域をどうにかしたいという気持ちが湧いてきました。就職したら東京へ行くこと

考えていたのですが、最終的に地元で地域や企業を活性化したいという思いに至りました。

**打樋** そこにセミでの研究の一つの意味があったということですね。山下さんはどうですか。

**山下** 歴史を学んでいる、ヨーロッパの政治を学んでいるというそれぞれの点が、本やテレビ番組、友達の会話などをつながり、線になる感じで、一つの知識としてより大きくなる瞬間を「今、知識が広がっているな」と実感できたのが一番大きなポイントです。意外なことに、必修科目のキリスト教や宗教学、地理系科目などからもシリア危機に関連する材料をたくさん与えられており、

その時は学ぶだけで必死でも、後で本を読んだりしている時に「ああ、これって関係があったんだ」と気付かされます。

**打樋** 私の経験でも、商学部の方に第二外国語でフランス語を選択したことが、当時はそれほど興味もなかったのですが、神学部に進んでから専門の論文を読むのに強みになったということがありました。必修科目のように、自分が関心

を持っていなくても必ず勉強しないといけない科目が、のちの専門性を深めるのに役立つというのは、大学での学びの

大事な一面ではないでしょうか。皆さんが研究において大切にしていることは何ですか。

### ミツバチ愛 地域との信頼関係 ノートとレジヌム

**宮木** ミツバチ愛だけで大学院に進んだというか、ミツバチがかわいくて、かわいくて。だから、一番大切にしていることは愛ですね。ミツバチへの愛があるからこそ研究もできる。自分ができることをどれだけ好きになれるか、向き合っていられるかが大切だと思います。

**打樋** 研究を進める中で、この研究を何かのために役に立てようと考えましたか。

**宮木** 正直、考えていません。説明することによって、将来誰かの何かの実験に生きるかもしれないですけど。ただ「それが何の役に立つの？」という言い方をされると、そこじゃないんだけどなって思いますね。

**打樋** その言葉を聞けてうれ



理工学研究科M2年生 宮木 優さん

### 実験で研究

こよなく愛するミツバチたちと、ミツバチの行動に関する研究で色への反応の違いを調べた撮影動画



※学年は、座談会開催時のものです



つながっていくのだろうなという気がします。

学部生の二人は、研究していく上で何を大切にしていますか。

**倉橋** ゼミとして、卸売市場との関係性をもっともっと続けたいな、引き続き活動している先輩たちのためにも継続したいなという思いでやってきました。信頼関係を継続するという点で気を付けたのは、ヒアリングで失礼のないように行動するという当たり前のことです。事前アポイントからお礼のメールや手紙まで必ず徹底していました。それにより、「この学生だったら、もっと深い話

をしてもいいんじゃないか」と思っていただけだと自負しています。

**打樋** フィールドワーク中心の研究では、人間関係や信頼関係をどう構築していくかがキーになるので、そこを一番大事にしてきたということですね。そこから学んだことも多かったのではないですか。

**倉橋** 耳で聞いて、目で見、心で感じると、心掛けたことが2回目、3回目のヒアリングにつながり、より深い内容を聞けるという手応えがありました。初めて訪問した時は冷たくあしらわれたのですが、足を運ぶ回数を重ねることでだんだん心を開いてくださった。話の切り換え方とか、気持ちよく話していただく方法とか、数を重ねることにテクニックも磨かれていったと思います。

**打樋** 山下さんは文献中心の研究ですが、これを大事にしてきた、しているというものは。

**山下** 高校時代の先生のアドバイスで、物事を見る視点や距離を変えることにより、視野を広く保つようになっています。なので、政治学に縛られずいろいろな授業を受講し、一つ

ひとつの授業には「ゼミに入った時に役立つかもしれない」という問題提起が散りばめられているので、「今日学んだことは何だろう」と家でノートにまとめてきました。授業のレジュメも2枚取り、一枚は授業中のノートとして、もう一枚は後で研究に関係するかもしれないから授業のまあとめに加えて、関連する本を読んで内容を書き込んだりしました。

**西日本最大の図書館で 学生本来の学び**

**打樋** 教えている教員が聞いたら、涙を流して喜ぶでしょうね。

**山下** 大学での学びは義務ではなく、知識を得ること、学ぶことに楽しさを見いだすようにしています。休み時間などに図書館に行って、本を見つけては、とりあえず10ページくらい読んで面白そうなところをメモする、という感じで学びを積み重ねています。

**打樋** 私もイギリスに留学した時、迷宮のような図書館にこもって本を探し、それが見つけた時の感動、しかもそれが

2世紀くらい前の本だったりした時の、心が震えるような出会いを経験してきました。逆に思いがけず、探しているものとは違う本に出合っ、それがまた研究の進展につながることもありました。関学には西日本最大の図書館があるので、図書館で勉強するという学生本来の魅力に出合わず卒業し



社会学部4年生 倉橋 宏明さん

### フィールドワークで研究

立ったままで聞き取りするのに欠かせないクリップボードと、会話を録音するためのICレコーダー



ていく人もいます。私はゼミ生に、特に卒論の時は「図書館の住人になりなさい」と言っています。

関学は三つのキャンパスに11学部がある総合大学です。他学部や自分の研究領域以外の人との出会いや交流はありましたか。

**宮木** 今まで数学と自然系のことしか見てこなかったの



で、今回の座談会が一番の機会です。3年生からこんなにしつかりと研究をされていることに驚いたし、シリア危機の話や卸売市場でのフィールドワークなど、面白いなと思いました。もっと早く知りたかったです。

**倉橋** 社会学部での学びや将来の自分の姿がぼんやりしていた時期に、商学部や経済学部の友達に「今日は消費者行動について学んだ」というような話を聞いては、自分も社会学部で将来役立つようなことを見つけて学ぼうと刺激を受けました。今日も、お二人に新たな刺激をいただきました。

**山下** 自分の研究領域外の点にすぎないと思っていた知識が、線となって物事の理解を深めることを実感したので、残り1年ですが、他学部の授業やこつこつ座談会などに積極的に参加して知識を得ていきたいと思っています。

## 遊びとの境界が あいまいになれば 研究は本物に

**打樋** 関学は基本的に他学部科目が履修できますので、ぜひ活用してください。

最後に、研究を含めて今後の展望、これからの自身の歩みについて聞かせてください。

**宮木** ミツバチについての知識や技術、そして愛情もとても強いので、たまには研究をお手伝いできたらいいなと密かに計画しています。また、3年間でミツバチの飼育技術も身に付いたので、老後は養蜂家になれるなど。

仕事でも、関学でミツバチに出合ったように、何か別のことに出来るかもしれないと期待しています。そういうものを見つけたら、またミツバチと同じように愛を持って全力で取り組めたらいいなと思っています。

**倉橋** 携わった再整備計画の成り行きを社会人になっても見守りたいですし、卸売市場内の18事業者にはアラングしたデータなどが何らかの形で今後役に立ってほしいなと思っています。就職先は人材紹介企業です。社会に出てからも西宮や宝塚など地域に重点を置いて仕事をしていきたいと考えており、人材紹介業を通して地域の企業の役に立ち、さらには地域を活性化することに

貢献できればと思っています。

**打樋** 山下さん、4年生での研究はどんな見通しですか。

**山下** 3年生の後期に他大との合同ゼミがあり、そこで拒否権行使による紛争の悪化を過去の事例と比較することでシリア内戦における国連の

いきたいです。どんな結論になるかわかりませんが、正解じゃなくても自分なりに納得できる答えを見つけれたらいいなと思っています。

**打樋** 皆さん、研究や学びが楽しいと話されました。高校までとの違いは、まさしく、そ



対応を多角的に検証できました。ようやく一つの段階に到達したので、それを踏まえた上で、将来的な見通しとして、例えば幾つもの問題が重なり合っている一つの大きな危機となる時に国連ができること、各国の対応などについてももっと調べて

ここにあるのではないのでしょうか。勉強と遊びが二分化されていた高校と違い、大学での学びや研究は、それ自体が楽しい、面白い、没頭できる。遊びとの境界があいまいになるところが見えた時こそ、本物だと思います。

※学年は、座談会開催時のものです



部活やサークル活動も活発



キャンパスを出て  
実社会で学ぶハ  
ンズオン・ラーニ  
ング・プログラム



交換留学や海外  
研修・国際ボ  
ランティアなど海外  
で学ぶチャン  
スが豊富

「今、企業はどのような人材を求めているのでしょうか。」

充実した大学生活を送った学生です。

よくアンケート調査などで、企業が求める人材として、主体性、協調性、コミュニケーション能力など、多くの要素が挙げられます。もちろん、これらは大切なことですが、結果として列挙されているのであって、全ての能力が高いという学生はそう多くはありません。採用する側はこれらの総合点を求めている訳ではありません。

私は、一定レベル以上の、学力を含めた基礎的能力があり、「充実した大学生活を送った学生」が求められていると思っています。大学生活で目標を持ち、何かに取り組んだ学生、大学での生活を振り返る時に「自分はこれをやった」と自分の言葉で説明できる学生です。勉強、留学、クラブ、アルバイト、その他、なんでもよいでしょう。

大学生活を充実させた学生は、いろいろな能力が養われており、今後の可能性が期待できます。

「関西学院大学が「就職に強い」とされる要因は何でしょう。」

隣人や社会、世界のために自らを磨き続けることを意味するスクールモットー「Mastery for Service」(奉仕のための練達)の精神が身に付き、バランス感覚が良い学生が多いということでしょう。ポテンシャルが高いこともありますが、社会に出て役に立ちたいと考え、自分のためだけではない働きができる学生が多いのです。

これらは、本学で学んでいく中で醸成されるもので、伝統とも言えるものではないかと思います。また、卒業生がそれぞれの分野で活躍されており、その働きが評価されていることも大きいと思います。

森田光男・キャリアセンター長に聞く

# 充実した学生生活を送ること。それがキャリアの第一歩

2017年3月に関西学院大学を卒業した学生の「就職率」(就職希望者のうち就職した割合)は99.2%。卒業生4,000人以上の大学では1位です(朝日新聞出版「AERA MOOK」2018年3月号<sup>※データは2016年3月分</sup>)。大学・大学院における卒業・修了者に対する就職者の割合を見ると、5,000人以上の卒業・修了生がいる大学で5年連続1位になっています。学生の就職支援を行うキャリアセンターの森田光男・センター長に、大学での生活と就職活動の関係について聞きました。



## —キャリアセンターでは、どのような支援策をされていますか。

社会に出ていく学生が満足  
のいく就職活動ができるよう  
に、できる限りの支援をして  
います。1年生からのキャリア  
ガイダンスをはじめ、大学独  
自のインターンシップ、毎年1  
千社以上の企業・団体が参加  
する業界・仕事研究セミナー  
や学内企業説明会など、多  
彩なプログラムを用意してい  
ます。その中で重視している  
のは、1対1、1回40分の個  
人面談です。相談員との対話  
を通して、自分をしっかり見  
つめ直し、自分では気付かな

個人面談では経験豊富なキャリアアドバイザーが  
さまざまな相談に対応



面接トレーニングでは本番さながらの緊張感も体験できる

い内面を引き出ししてもらいた  
いと考えています。自分で考  
え、自分の言葉で話せる力を  
つけてもらうことに重点を置  
いています。自ら考えることが  
大切です。相談は、大阪梅田  
キャンパス、東京丸の内キャン  
パスも含め、全てのキャンパス  
でできます。年間約1万4千  
件の相談を受けています。ま  
た、就職活動を終えた4年生  
がSR(Student Reporters)  
として後輩の就職活動を支  
援する制度もあります。後輩  
にとつては年齢も近く、企業  
に対する本音や自らの経験  
を踏まえたアドバイザーなどを  
先輩から得られるだけに、参  
考になることが多いようです。

大規模な大学でありながら、  
全教職員が一体となって早く  
から学生に接することで、学  
生の進路把握率99.5%を実  
現していますが、これも本学の  
校風を表しています。先輩と  
の垣根が低く、社会人となつ  
た先輩訪問も気軽にできる環  
境です。その結果、内定先の  
満足度も大変高いのです。

## —新入生へのメッセージ をお願いします。

今あることが将来まであり  
続ける保証はない、ということ  
です。

働く環境はめぐるしく変  
化し、答えのないことばかりで  
す。IoTやAIといった技術  
革新も進んでいます。また、世  
界を見据えないで仕事をして  
いくこともできません。企業の  
規模・業種・職種を問わず、働  
く場所が国内であっても関係  
ありません。すぐ隣に世界が  
広がっている時代なのです。  
このような状況を考えれば、  
力をつける必要があります。そ  
れは、すぐに身に付くものでは  
ありません。積極的なアクション

ンを起こし、チャレンジし、多  
くの経験を通して身に付けて  
ほしいと思います。自ら動か  
なければ何も起こりません。何  
が起これなければ成長はあり  
ません。目標を持って、充実し  
た大学生活を送ってほしいと  
思います。このことは  
進路が就職の場合に  
限ったことではありません。

関西学院が現在の  
の西宮上ヶ原キャ  
ンパスに移転した際、  
当時のベーツ院長は、  
周囲と隔てる垣根のない開放  
的な新天地を「We have no  
fences」と誇ったといい、キャン  
パス内には大学と社会、国境  
という垣根すら意識させない  
気概がふれていたそうです。  
グローバル化が進み、先が読め  
ない不確実な時代だからこそ、  
「Mastery for Service」の精  
神を持った学生、「We have  
no fences」という心を持っ  
た学生を企業は求めています。  
関西学院大学で学ぶことで、  
こういった精神を培ってほしい  
と思います。



森田光男・キャリアセンター長

## 滋賀県、静岡県と 就職支援に関する協定を締結

関西学院大学は昨年12月22日に滋賀県と、1月18日に静岡県と就職支援に関する協定を締結しました。都道府県と就職支援協定を締結するのはこれで計12例になりました。

両県とは今後、学生や保護者に対する県内企業の情報提供や各種イベントなどの周知、県内企業におけるインターンシップの受け入れ、UJIターン就職の促進などを行っていく予定です。

## 持続可能な開発目標について Harvard x KG公開討論会を開催

関西学院大学の学生と、米国ハーバード大学で日米の学生間交流促進を目的に活動している学生団体「Harvard College Japan Initiative (HCJI)」の学生計10人が、持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals) について英語で話し合う公開討論会「世界に挑戦し続ける—SDGsに私たちは何ができるのか—」が1月7日、西宮市の大学交流センター大講義室で開かれました。



まず、両大学の学生で構成する2グループがプレゼンテーション。地域と国がSDGsの目標17項目をどのように達成できるのか、特に目標11(包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能な都市および居住区の実現)と目標12(持続可能な消費および生産形態の確保)について熱心に話しました。

最後は、学生たちが一般参加者と少人数のグループに分かれて意見交換。アマンザ・モゼアさん(ハーバード大学4年生、社会学専攻)は「どうすれば世界の問題を解決できるのか、魅力的な質問が多く出ました。素晴らしいことだと思います」と話しました。右馬治樹さん(総合政策学部3年生)は「ハーバード大の学生と話す機会はとても楽しかったです。難しいテーマでしたが、彼らに助けられてやり遂げることができました。今回の経験を通して、将来の夢をかなえるための力が身に付きました」と話しました。

この取り組みは3年前に総合政策学部国際政策学科の村田俊一教授(前国連アジア太平洋経済社会委員会事務局次長)の指導で始まりました。当初は1日のプログラムでしたが、3日間に拡大され、今年も成功に終わりました。今後も両大学の学生の協力により素晴らしい機会が創出されていくと期待されます。



## 関西学院大学ならではの奏楽奉仕 チャペルオルガニストを募集します

チャペルオルガニストは、各学部のチャペルでオルガン奏楽の奉仕をする学生オルガニストのことです。関西学院のキリスト教主義教育において重要な役割を果たしています。採用されると、4年間専門のオルガン講師の個人レッスンを受けることができ、春のコンサートや秋の発表会など日頃の練習を披露する場もあります。関西学院大学ならではの奉仕活動です。奮ってご応募ください。またスプリング・コンサートも開催します。ご参考にぜひご来場ください。

### チャペルオルガニスト募集

- ▶ 応募期間=4月2日(日)~26日(木)
- ▶ オーディション=4月28日(土)
- ▶ 募集要項・応募用紙の入手方法  
organist@kwansei.ac.jpに所属学部名を書いたメールを、添付ファイルを受信可能なメールアドレスから送信してください。返信で送ります。

### スプリング・コンサート

- ※ 入場無料
- ▶ 日時=4月17日(火)、19日(木)  
12時50分~13時25分
- ▶ 場所=西宮上ヶ原キャンパス  
ランパス記念礼拝堂
- 問い合わせ・資料請求は、宗教センター(☎0798-54-6018、organist@kwansei.ac.jp※神戸三田、西宮聖和両キャンパスについても同じ)へ。



## 長友淳・国際学部准教授が 国際学会で最優秀発表賞

長友淳・国際学部准教授が1月2日と3日にドイツ・ミュンヘンで開催された国際学会「International Conference on Social Science and Economics (ICSSE)」で、最優秀発表賞を受賞しました。

長友准教授は「毎年、ゼミ生と一緒に海士町(島根県隠岐郡)を訪れ、町の方々のお話を聞く機会を多くつくっています。今回の研究発表もゼミ生と共に学んだ過程そのもの。海士町の方々やゼミ生に感謝しています」と振り返り、「これまで中間層の移動という軸で、オーストラリアへの日本人移住者と、海士町への1ターン移住を研究してきました。中間層の移動は、移住・定住プロセスの過程が複雑で、関連する領域も広いので、研究対象としても興味深いものがあります。今後もゼミ生たちと共に学びを深めていきたい」と語りました。

受賞した発表のタイトルは、「Tourist Gaze in Visitation Tours: Social Interactions and Power Relations between Host and Guest in Ama-cho, Oki Islands, Japan」。自治体や教育の関係者が行う海士町への視察旅行について、文化人類学的フィールドワークをもとに考察したものです。





## 社会学部のゼミ生が 研究内容をポスター発表

社会学部は、学生がゼミ単位でそれぞれの研究をポスター1枚で報告する「ポスター発表会」を1月19日、社会調査実習室で開きました。同学部では初めての取り組みで、ゼミ内活動を活性化させることや、多様な調査、研究を知ること、ゼミの活動内容を下級生に伝えることなどを目的としています。発表会に合わせて、1月15日～24日の期間、社会学部とH号館の間の通路にポスターを掲示しました。

発表会では、自分たちの研究を熱心に発表することはもちろん、他のゼミのポスターを真剣に読んだり、疑問点についてその場で自由に議論したりと活発な交流が見られました。

研究について気になったことやコメントなどは、付箋に書き込んでポスターに貼れるようになっており、10枚ほど貼られているポスターも。付箋には「自分の研究と共通する部分があって面白い」「ポスターの作り方も勉強になった」と



いった感想から「多くの人が知らないと思われる言葉には説明を付けた方がよい」といった指摘までさまざまな声がありました。

「お菓子を社会的に考えてみた」をテーマに、お菓子がコミュニケーションツールとして使われていることや、ソーシャルネットワークを用いたお菓子のプロモーションなどについて研究した立石裕二ゼミの笠間尚さん(社会学部3年生)は、「時間をかけてまとめた研究は、人前でも自然と話すことができ、これまでの取り組みが自分の力になっていると実感しました。また、他の人の発表を聞くと、どの学生も熱心に研究してきたというのが分かり刺激になりました」と話しました。

## 教育学部で16年続く通学ボランティア 小学生が感謝の会を開催



西宮聖和キャンパスに通う教育学部生の有志が近隣の西宮市立上ヶ原小学校の児童のために取り組んでいる、登校時の安全確保と見送りのボランティアに対して、児童による「感謝の会」が1月12日、上ヶ原小学校の体育館で開催されました。

この活動は2001年6月8日に発生した大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件に衝撃を受けた教育学部の藤木大三教授が、地域の児童の安全対策に協力しようと、聖和大学(当時、09年に関西学院と合併)教育学部生たちに呼び掛け、事件1カ月後の7月8日から始まりました。以後16年

間、途切れずに続いています。

学生たちは午前7時半までに大学に集合し、交通量の多い交差点や幅の狭い道など、児童が危険にさらされやすい地点で活動。猛暑の夏も雨の日も通学路に立ち、児童とのコミュニケーションを続けています。次第に良好な関係が築かれ、児童が登校後に正門で大学生を待ち構え、グラウンドで鬼ごっこやドッジボールをするという光景も見られます。

今では、藤木教授や学生たちの熱心な活動を見た地域の老人会やボランティアの方々も仲間に加わって一緒に活動するなど、世代を超えた交流も生まれています。

## 学生生活に役立つ多彩なプログラム キャンパスライフABC!を開催します

新入生オリエンテーション「キャンパスライフABC! 2018」を4月6日(金)に西宮上ヶ原キャンパスで開催します。

奨学金など希望者は参加必須の説明会のほか、暮らし、学び、課外活動等々、初めての大学生活に役立つ盛りだくさんのプログラムを用意しています。新入生は各会場を自由に移動し、興味のあるプログラムに参加することができます。入学式で配られるパンフレットをよく読んで、スムーズに各会場を回れるように自分の



1日のスケジュールを組み立ててください。

問い合わせは、スポーツ・文化課へ。

## 理工学部の宇治槻さんが 優秀研究賞を受賞

電子情報通信学会コミュニケーションオリティ研究会主催「第5回コミュニケーションオリティ基礎講座ワークショップ」が1月20日にあり、宇治槻さん(理工学部4年生・巴波研究室)が優秀研究賞を受賞しました。

この賞は、優秀な研究発表を行った発表者に対して贈られる賞です。受賞研究は「リンク正常確率を考慮した信頼度の高いネットワークを実現す

る保護リンク決定法」(宇治槻・巴波弘佳)。ネットワーク全体の信頼性を向上するための設計法に関するもので、本研究では、これを離散最適化問題として定式化して数学的な性質を解明し、さらに有効なアルゴリズムを設計して数値実験によりその有効性を示しました。





## 巳波研究室が電子情報通信学会 ネットワークシステム研究賞を受賞

「第34回情報ネットワーク・ネットワークシステム研究ワークショップ」が3月1日に開催され、山崎強志さん(理工学研究科M1年生・巳波研究室)と巳波弘佳教授(写真右)が電子情報通信学会ネットワークシステム研究賞を受賞しました。



に対する復旧順序決定法」。大規模災害時における余震などによる再度の被災も考慮した適切な通信ネットワーク復旧計画策定法に関するものです。これを離散最適化問題として定式化し、数学的な性質を解明し、さらに有効なアルゴリズムを設計したことが高く評価されました。

この賞は、電子情報通信学会ネットワークシステム研究会において行われた講演論文のうち、特に優秀であり今後の活躍が期待できると認められたものに対して贈られる賞です。

受賞研究は「リンク故障確率を考慮した断続的リンク故障に

## 私立大学等改革総合支援事業に 5年連続採択

文部科学省の私立大学等改革総合支援事業において、関西学院大学は四つのタイプ(タイプ1、3、4、5)に申請し全て採択されました。

本事業は、「教育の質的転換」「産業界・他大学等との連携」「グローバル化」「プラットフォーム形成」などの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学を重点的に支援するものです。本事業における採択は5年連続となります。

本学の申請内容は以下のとおりです。

▶**タイプ1「教育の質的転換」**  
全学的な体制での教育の質的

転換(学生の主体的な学修の充実等)

▶**タイプ3「産業界・他大学等との連携」**

産業界や国内の他大学等と連携した高度な教育研究

▶**タイプ4「グローバル化」**

語学教育強化、国際環境整備、地域の国際化など、多様なグローバル化

▶**タイプ5「プラットフォーム形成」**

複数大学間の連携、自治体・産業界等との連携を進めるプラットフォーム形成

## アメフト部の試合を応援し 関西学院の雰囲気を感じましょう



スポーツ・文化課は、新入生歓迎イベントとしてアメリカンフットボールの試合を応援する「Let's go to the Stadium!」を4月21日(土)に神戸市灘区の王子スタジアムで実施します。

今年はアメリカンフットボール部ファイターズの試合観戦に加え、多くのクラブ・サークルのパフォーマンスや体験企画を実施。課外活動に夢中な先輩たちが

新入生を歓迎します。

キックオフは14時。対戦相手は明治大学グリフィンズです。新入生は、入学式で配布するチケットで入場できます。新入生以外もチケットは関学生協などで購入できます。問い合わせは、スポーツ・文化課へ。イベントの詳細はletsogokg.comまで。



## ポールキャンドランド氏講演会を 4月20日に開催します

関西学院大学は、元ウォルト・ディズニー・ジャパン代表取締役社長のポールキャンドランド氏を講師に招き、4月20日(土)に講演会「グローバルマーケットで成功していくために」を開催します。詳細は下記の通りです。

▶日時=4月20日(土)11時10分~12時40分

▶場所=神戸三田キャンパス アカデミックコモンズ1階 アクティブラーニングゾーン

▶対象=関西学院大学に在籍する大学生、大学院生

▶申し込み=K・Gポートフォリオより申し込んでください

問い合わせは、神戸三田キャンパス キャンパス担当事務室(☎079-565-7600)へ。



## 関学カプセル...37



動物たちも、癒やしを与えられる。園内の遊歩道は、日本家屋の土間づくりの伝統工法である三和土で作られているが、屋外の厳しい条件に耐えるための強度の確保や環境への配慮のために、表面硬化剤を塗布するなどの近代的工夫も併用されている。

周囲の植栽林はサクラ、カエデ、クロマツを中心に構成されており、季節ごとに色鮮やかな美しい景色を見せてくれる。また、周辺で暮らすカモや鯉などの

## 日本庭園

四季折々に美しい癒やしの空間

西宮上ヶ原キャンパスにある日本庭園は、洋風の雰囲気のあるキャンパスの中でも「和」を感じることが出来る場所。多くの学生が散策や休息、また交流の場として利用している。造園された明確な時期は不明だが、関西学院が上ヶ原に移転した1929年からその原形は存在していたよう。キャンパスマップでも1935年ごろから確認できるようになった。庭園内の石材は全てキャンパス内で出土したものが使用されており、護岸の石組みの修復には新図書館建設時に出土した転石で主な補てんを行った。



## 学生定期健康診断を必ず受けましょう

学生定期健康診断を下記の通り実施します。所属のキャンパスで受けてください。健康診断の結果は、実習、留学、就職活動、クラブ活動等で必要になります。受けていない場合、後日、有料で医療機関を受診することになります。1年生のみならず、2・3・4年生、大学院生も必ず受けましょう。

西宮聖和キャンパス	
教育学部2・3年生、聖和短大2年生	4月3日(火)
教育学部1・4年生、聖和短大1年生、編入生	4月4日(水)
時間	9時10分～11時5分、12時50分～15時30分 ※学年、コース、性別により受付時間が決められています。学内掲示、パンフレット、ホームページ等で確認してください。
場所	体育館

西宮上ヶ原キャンパス	
女子	4月9日(月)～13日(金)
男性	4月16日(月)～20日(金)
時間	9時30分～11時15分、12時45分～15時45分
場所	G号館地下

神戸三田キャンパス	
女子	4月9日(月)、10日(火)
男子	4月11日(水)～13日(金)
時間	9時30分～11時15分、12時45分～15時30分
場所	体育館

## KG★グルメ

### 東京庵(西宮上ヶ原キャンパス)

#### 豚生姜焼き定食

**ポ**リューム満点のあったか料理で体育会の学生から圧倒的人気を誇る東京庵。定番メニューの一つが「豚生姜焼き定食(715円)」です。味がしっかりとしみ込んだ豚肉は軟らかく、ご飯が進む進む! 食べ終わるまで箸が止まることはありません。ボリュームも文句なし。あなたのお昼に幸せなひと時を提供してくれることでしょう。



## G号館1階に「スターバックス」「セブン-イレブン」がOPEN!



STARBUCKS®



4月2日に「スターバックス」と3月26日に「セブン-イレブン」がG号館ラウンジ棟1階にOPENします。

「スターバックス」は、くつろぎの空間で高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティー豊かなドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

「セブン-イレブン」は285平方メートルの広い店舗面積を生かし、充実した品ぞろえを誇ります。関西学院大学の開店を祝し、4月9日(月)～11日(水)の3日間、オープニングセールも開催されます。

なお、両店舗とも土曜や夏季休業中も営業しますので、各人のキャンパスライフに応じて上手に活用してください。

**スターバックス 関西学院大学店**

▶営業時間＝平日8時30分～19時、土曜10時～17時\*

▶定休日＝日曜、盛夏休暇中(8/7～19)、冬季休暇中(12/23～1/6)、2/1～28

**セブン-イレブン 関西学院大学店**

▶営業時間＝平日8時～20時、土曜8時～20時\*

▶定休日＝日曜、盛夏休暇中(8/7～19)、冬季休暇中(12/23～1/6)、2/1～28

\*両店舗とも授業期間外は営業時間が一部短縮になります。

## 学生が小学生を招いて楽しくワークショップ

関西学院大学の教育学部、理工学部、総合政策学部の学生が2月17日、西宮聖和キャンパスのラーニングコモンズ「リブラ」で、地域の小学生を招き、プログラミングや国際問題について学べるワークショップ「アカデミックデイ」を行いました。

プログラミング体験には小学5、6年生14人が参加。ビジュアルプログラミング言語「SCRATCH」を使って、「シンデレラ」や「三匹の子豚」「桃太郎」などの昔話をもとにオリジナルのショートムービーを作成しました。国際理解教育には小学1年生から6年生まで29人が参加。難民について学ぶことができる体験型のワークショップを通じて、国際問題を考えました。



このイベントは、小学校教員を目指す教育学部生、情報科学を学ぶ理工学部生、国際問題を学ぶ総合政策学部生がそれぞれの強みを生かし、昨年10月からミーティングを重ねて協働で企画。キャンパスの垣根を越えたコラボレーションにより実現しました。小学生たちの笑顔や元気な声でリブラが活気にあふれ、運営した学生にとっても多くの学びがある1日となりました。関西学院大学では今後も、小学生をはじめ、地域の方々に参加できるイベントを開催する予定です。

学院通信

兵庫県高校写真部の生徒が集まり、自分たちで運営する写真展「インターハイスクールカップ・フォトコンテスト2018」が2月4日に開かれ、関西学院高等部写真部の浅田佑太郎さん(3年生)が2年連続となる最優秀賞を受賞し、小田貴士さん(3年生)、岸本陸さん(3年生)が入選しました。浅田さんの作品は、春夏秋冬それぞれの瞬間を捉えた写真を一つにまとめた「四季」というタイトルで、参加した200人以上、約400作品の中から最多の票を獲得しました。

写真部は、昨年11月の「第41回兵庫県高等学校総合文化祭写真部門」でも、7人が入賞し、最優秀学校賞を受賞するなど、これまで素晴らしい成績を残しています。普段は、週末に部員同士で撮影に出掛け、それぞれの作品についてアドバイス合ったり、長期休みには遠方で合宿したりするなど積極的に活動しています。マネジャーの岸本さんは「写真の魅力は終わりが無いこと。同じ場所で撮影しても、その時々で違って写る。正解がないから、いつまでも続けられる」と話します。

最優秀賞を受賞した作品について浅田さんは「1年前からやりたいと思っていた作品。始発電車で出掛けたり、夜に撮影を6時間続けたりと大変なこともありましたが、とても楽しめた」と振り返りました。今後については、「大学でも写真は続けていきたい。写真部の同級生でグループをつくって、グループ展を開くのが目標。個人としても一般のコンテストで入賞を狙いたい」と話しています。

※学年は、その当時のものです。

↓写真部のメンバー(前列中央が浅田さん)



↑浅田さんの作品「四季」

県内の高校写真部のコンテストで  
高等部が最優秀賞等を受賞

池上彰氏 講演会「学びつづける力とは」  
5月10日に開催します

関西学院大学は、ジャーナリストの池上彰氏を講師に招き、5月10日(金)に講演会「学びつづける力とは」を開催します。詳細は下記の通りです。

▶日時=5月10日(金)15時10分~16時40分  
(開場14時30分)

▶場所=西宮上ヶ原キャンパス 中央講堂(125周年記念講堂)  
神戸三田キャンパス(映像配信) アカデミックコモンズ1階 アクティブラーニングゾーン

▶対象=関西学院大学に在籍する大学生、大学院生

※当日、会場での質疑応答あり(神戸三田キャンパスからも質疑可能)

▶申し込み=参加する会場の申し込みフォームより申し込んでください(定員に達し次第、受け付け終了)



西宮上ヶ原  
<https://jp.surveymonkey.com/r/Q8TGK7B>



神戸三田  
<https://jp.surveymonkey.com/r/Q8NXRYP>

問い合わせは、関西学院広報室(☎0798-54-6017)へ。

留学生との出会いと交流を  
コーヒーアワーを開催します

海外から関西学院大学に來ている留学生や教員の方々と一緒に楽しく交流する国際交流イベント「コーヒーアワー」が4月19日(金)、西宮上ヶ原キャンパスの関西学院会館レセプションホールで開催されます。

毎回200人を超える留学生と関学生が参加、たくさんの出会いがあり交流が繰り広げられます。関学生は誰でも自由に参加でき、キャンパスにいながら国際交流を楽しめます。詳細や今後の予定は、国際教育・



協力センターへ。

▶日時=4月19日(金)17時15分~18時30分

▶場所=西宮上ヶ原キャンパス 関西学院会館レセプションホール

▶参加費=無料

▶持ち物=学生証

読者アンケート&プレゼント

関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で7名様に「関学マスキングテープ3種」をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2018年6月22日(金)。当選は発送をもってかえさせていただきます。

※お寄せいただいた個人情報、はプレゼントの発送以外では利用いたしません。

関学ジャーナルへのご意見・ご感想はWEBでも受け付けています。▶関学ジャーナルご意見・ご感想フォーム URL→<http://www.kwansei.ac.jp/form/kgjm.html>



スマートフォン



パソコン URL ↓

<http://www.kwansei.ac.jp/r/kgjournal/>



# 世界の街角から

Republic of Turkey



島津製作所トルコ支店  
(Shimadzu Middle East & Africa)

佐々木 大輔さん

(2006年経済学部卒)



## 日本との違いを楽しみつつ 自分の考えを伝えることが重要



↑ガラタ塔から望むイスタンブールの街並み

島津製作所は分析計測機器、医用画像診断装置を主力商品として開発製造しています。弊社 Shimadzu Middle East & Africa はその子会社として、トルコを含む中東・アフリカ各国にこれらの商品の販売マーケティングを行うことが事業内容です。私は分析計測機器部門の営業マネジャーとしてトルコのイスタンブールに駐在し、

今年で5年目になります。イスタンブールは、ボスボラス海峡を挟んでヨーロッパ大陸とアジア大陸にまたがるトルコ最大の都市です。ブルームスク、アヤソフィアなどの世界遺産を有する歴史の深い観光地としても有名です。ボスボラス海峡沿いの景色はいつ見ても素晴らしい、駐在5年目となった今でもその美しい街並みを見飽きる

ことはありません。

海外駐在は今回が初めてで、それまでに海外生活をした経験もありませんでした。トルコという日本から遠く離れた国での仕事と生活、また出張で訪れる中東・アフリカ諸国での仕事は、あらゆる面で日本とは勝手の違うことばかりで、初めは戸惑いの連続でした。その環境に身を置く中で徐々に、違いを楽しみつつ自分の考えを伝えることの重要性も学びました。そしてまた、日本とは違う環境であるからこそ、人とのつながり、支えのありがたさを感じます。実感しています。

在留邦人数が決して多いとはいえないトルコですが、諸先輩方のご尽力により関学イスタンブール同窓会を立ち上げることができ、2016年3月に正式に支部として承認されました。職種も年齢も異なるメンバーですが、定期的に集まり、親睦を深めています。遠くトルコの地にあっても、関学の卒業生というだけで打ち解け、大学時代の思い出を語り合うことができ、改めて、関学とのつながりが続いていることに感謝しています。多くの人と出会い、刺激し合い、学ぶことができる機会にあふれる場が関学であると思っています。

## 協定校紹介

### シドニーの3協定大学

関西学院大学は、オーストラリア(豪州)最大の都市シドニー地区に三つの協定大学があります。

**シドニー大学**(1991年協定締結)は、豪州最古の大学でトップクラスの研究大学の一つです。日本語教育に優れており、関学大とは1980年代初頭に交流が開始されました。Bruce Miller前オーストラリア駐日大使は、初期の聴講生として文学部で1年間学びました。**ニュー・サウス・ウェールズ大学**(2003年協定締結)はシドニー大学のライバル校で、同大学を意識して「豪州で最初のグローバル大学」と称しています。国際化に積極的で、全学生の約29%が留学生であり、同大学の多数の学生が海外留学しています。三つ目が、**マッコリー大学**(2015年協定締結)です。「豪州の革新的大学」と称され、経営学大学院はアジア・太平洋地域でトップクラスの評価を受けています。国内最大規模の言語学部も有名です。

関学大は、これら3大学を含め豪州全大学の4分の1の12大学と協定を締結、交換留学以外に外国語研修、英語中期留学、海外インターンシップなどの交流を実施しています。



ニュー・サウス・ウェールズ大学



大学図書館ホームページでは、WEBデータベースや図書館活用術など、幅広い情報を分かりやすく紹介しています。教職員の最新情報も随時更新。「関西学院大学図書館」で検索！

大学図書館の旬な情報をお届け

# Libraring

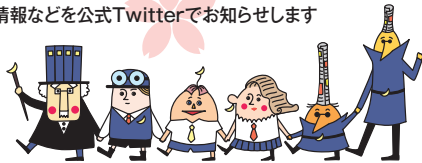
## 大学図書館を使いこなそう！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！  
関西学院大学図書館の使い方やポイントをご紹介します。

- ▶ 図書館への入館、本の貸出には学生証が必要です
- ▶ 学部生は10冊まで14日間借りることができます（一般図書の場合）
- ▶ 授業のある期間の平日は8時50分から22時（西宮聖和は21時）まで開館しています
- ▶ 学術書だけでなく、小説などの文庫本、旅行ガイド、映画のDVDもあります
- ▶ 履修登録やレポート執筆に不可欠なパソコンも利用できます
- ▶ 新しいコーナーの紹介や空席情報などを公式Twitterでお知らせします



@KG\_Lib



## OPACで貸出履歴をチェック！

OPACから貸出履歴が確認できるようになりました。借りた日やタイトルが一覧表示されるので、読書記録として活用できます。大学図書館ホームページまたはOPACの「利用状況確認・更新」をクリックし、システム利用IDでログインすると、貸出履歴の設定画面が出ます。「有効にする」にチェックして「決定」を押せば、履歴の蓄積・確認が可能になります。

※表示される貸出履歴は「有効にする」を選択した以降のものとなります

大学図書館ホームページ

<https://library.kwansei.ac.jp/>



## 教職員の新刊

### NTJ新約聖書注解 ガラテヤ書簡

浅野淳博神学部教授著  
日本キリスト教団出版局

### 美術史学の系譜

加藤哲弘文学部教授著  
中央公論美術出版

### 石干見のある風景

田和正孝文学部教授編  
関西学院大学出版会

### せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題 ナチズムと社会主義の過去をめぐる葛藤

橋本伸也文学部教授編著  
ミネルヴァ書房

### Language Contact and Variation in the History of English

内田充美社会学部教授共編  
開拓社

### 広告の夜明け

大阪・萬年社コレクション研究  
難波功士社会学部教授共編  
思文閣出版

### 広告と社会学

難波功士社会学部教授著  
弘文堂

### 刑法各論判例50！

松尾誠紀法学部教授共著  
有斐閣

### 地方創生20の提言

林宜嗣経済学部教授共著  
関西学院大学出版会

### 企業間管理と管理会計

サプライチェーン・マネジメントを中心として  
浜田和樹商学部教授著  
税務経理協会

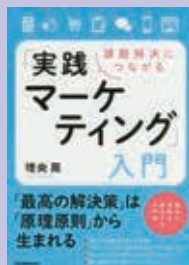
### グローバルキャリアのすすめ

関西学院大学総合政策学部発行  
関西学院大学出版会

### 歴史と文化のまち 臼杵の地方創生

石原俊彦経営戦略研究科教授監修  
関西学院大学出版会

## 課題解決につながる「実践マーケティング」入門



学業でも仕事でも成果を出すには、「情報収集のアンテナ」「不必要な情報を捨てられる勇気」「分析力」そして「計画をもとに行動する気持ち」が必要です。情報は使ってなんぼ、情報に貴重な時間を使われてはいけません。そのために何をすべきかを考えることがとても大切です。答えは一つではありません。自分自身の情報との向き合い方を考える上で、本書が何らかのきっかけになるとすれば、これに勝る喜びはありません。

理央周（児玉洋典・経営戦略研究科准教授）著 272ページ 日本実業出版社



## 痕跡と祈り メルヴィルの小説世界

近代文学は、浄化と救済を追うためにあるといってもよいのですが、それはまた、死者という欠落、欠損と向かい合わざるを得ない宿命にある人類にとり、宗教があまねく取り組んできた、あるいは取り組むべきであった主題でもあります。19世紀のアメリカの作家、ハーマン・メルヴィルの作品を精読する本書は、メルヴィルの小説世界を巡るものですが、広い意味では、近代における文学と祈りの主題について論じています。



橋本安央・文学部教授著 367ページ 松柏社





人間は何ものなのでしょう。  
人の子は何ものなのでしょう

旧約 詩編8編5節

聖書の巻頭「創世記」の  
最初で、神は人間を創造し  
ます。それには二つの物語が  
あり、ひとつは「神の似姿」  
として、もうひとつ「エデン  
の園」の物語では「土から」  
造られ「るもの」として。対照  
的な内容の二つの物語を通  
じて、私たちは人間の二つの  
本質を知らされます。すな  
わち、神のように無限の可  
能性を発揮することができ  
ると同時に、土くれのよう  
に「土に返る」べき弱さ、限界  
をもっているということです。  
関西学院がよって立つキ  
リスト教主義は、このような  
人間への理解からはじまり

ます。キリスト教への学びは、  
人間をより深く理解するた  
めの営みでもあります。無  
限の可能性を信じて最高の  
学びを求めらる中で、限界（弱  
さ）があるからこそ、それを  
仲間とともに支えあい、励ま  
しあいながら、歩むこと（愛  
し合う生き方）の大切さに  
気づいていただきたいのです。  
関西学院が「学びと探究  
の共同体」と言われるのは、  
キャンパスが、たくさんの中  
間とともに学び、ともに生  
きる場であることを前提と  
しているのです。それが関西  
学院、私たちはその仲間な  
のです。We are Kwanssei!

編集後記

座談会に参加してくれた学生たちは、「学ぶ」ことに積極的で、自身の研究をとても楽しんでる様子だった。夢中になれる何かがあることは、素晴らしいと思う。関西学院大学にはたくさんさんのチャスがあり、それを生かして活躍する学生が大勢いる。これからもたくさんさんの挑戦と学びを積み重ねていこう。応援しています！(ト)

関西学院大学  
Facebook



関西学院大学の身近なニュース、キャンパス風景、動画などを紹介。英語版ページもますます充実。「いいね!」をして関西学院大学の情報をゲットしよう。



日本語版



英語版



関西学院大学  
Instagram



関西学院大学のキャンパスや授業風景、学生の活動の様子など、さまざまな瞬間を写真や動画で紹介しています。ぜひフォローしてください。



# 関西学院大学に、 入学するあなたへ。

今日、一人ひとりが新たな決意を胸に、  
昨日とは違う、希望に満ちた朝を迎えたであろう。  
白い時計台の前に広がる、青々と輝く芝のように、  
新鮮な気持ちで大きく一步を踏み出そう。

今、さまざまな局面で、急激な変化が起きている。  
進化した AI がヒトに取って代わろうとする時代、  
必要とされるのは、自ら考える人間の創造力だ。  
SNS の狭い世界を介し分極化が懸念される中、  
鍵となるのは、広い視野と多様性への理解だ。  
人生 100 年時代の生き方が問われる昨今、  
求められるのは、生涯学び続けることだ。

あなたが社会に出る頃には、新たな世界が待っている。  
自らを鍛え、人のために尽くし、人生の指標を見つけよう。  
無限の可能性を信じ、今しかできない挑戦をしよう。

## 次代を率いる、 世界市民へ。

